

(様式7)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月14日

【評価実施概要】

事業所番号	32719900288		
法人名	医療法人社団水澄み会		
事業所名	グループホーム ゆうな		
所在地	島根県浜田市三隅町河内 469-1 (電話) 0855-32-4550		
評価機関名	NPOしまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白潟本町43番地		
訪問調査日	平成20年11月7日	評価確定日	平成20年11月28日

【情報提供票より】(平成20年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年9月4日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	14人	常勤12人, 非常勤2人, 常勤換算	13.1人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000円	その他の経費(月額)	13,500円	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	150円
	または1日当たり		800円	

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	18名	男性	1名	女性	17名	
要介護1	2名	要介護2	4名			
要介護3	5名	要介護4	7名			
要介護5	0名	要支援2	0名			
年齢	平均	82.8歳	最低	76歳	最高	98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	浜田医療センター	山根歯科医院
---------	----------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設して6年が経過し利用者の重度化が進んでいるが、管理者や職員は「利用者一人ひとりに今出来ることを出来る時にしてもらいたい」と植栽の水やりやボードへのメニュー書き等、一日の中で主役になれる場面を作りながら支援している。三匹の猫がユニット間を行き来し癒しとなっている。地域活動も積極的で法人の健康福祉祭りで認知症相談コーナーを設けたり、ボランティアと一緒にジャンボ巻き寿司を作ったり、子供たちが神楽を踊りに来たりと地域との触れ合いや交流が着実に広がってきている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 理念の共有、運営推進会議を活かした取り組み、本人とともに過ごし支えあう関係、チームで作る利用者本位の介護計画、事業所の多機能性を活かした支援等多くの改善課題があげられていたが管理者を中心に改善してきた。残された課題もある。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は職員で項目にそって話し合いリーダーが記入したものを管理者がまとめた。外部評価の改善課題は管理者が中心となって検討しながら多くを改善してきたが職員全体や計画的な取り組みとなっていない。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 利用者の状況や行事、事故、苦情、研修、外部評価結果等を報告検討している。行方不明や緊急時の対策等について、警察や消防署の方からアドバイスがあり運営等に活かしている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 面会時や電話でのやり取りを「ご意見要望承り表」に記載し職員間できちんと共有し、対策を立てて対応している。家族アンケートも年2回実施し、要望把握に努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域向け広報の発行や地域の諸行事に参加している。地域へのPRや貢献等を話し合う場があり、職員の発案で利用者と缶拾いをはじめ等地域との交流に積極的である。畑を借りて野菜をつくり、地主からの援助や収穫の協力がある。野菜等の差し入れもある。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り 組みを 期待し たい項	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念とは別に、地域の中で人間として尊厳を持って生きることへの支援を盛り込んだホーム独自の理念や方針を作っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「こやまケア」実践評価表の年2回の実施や日々のケアを通じ振り返っている。「理念を理解し自ら考え行動する」の評価結果が低く職員で話し合って改善策を立てた。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域向け広報の発行や地域の諸行事に参加している。地域貢献等話し合う場があり、職員の発案で利用者と缶拾いをはじめ等地域交流に心掛けている。畑を借り野菜づくりの援助も受けている。差し入れもある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員で項目に沿って話し合い、リーダーが記入したものを管理者がまとめた。外部評価の改善課題は管理者を中心に改善したが、計画的な取り組みとなっていない。	○	管理者だけでなく各ユニットの職員も含め、改善シートの活用等で計画的に改善に取り組んで頂きたい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取 組みを 期待し たい項	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況や行事、事故、苦情、研修、外部評価結果等が報告されている。行方不明や緊急時の対策等、警察や消防署の方からアドバイスがあり、運営に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者や職員は日常的に広報の配布や緒手続きを通じ担当者とは馴染みの関係にあり、情報交換や提供を行っている。地域密着系部会にも参加し関係者と連携が取れている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時や担当者が毎月利用者の様子を手紙で伝えたり、二ヶ月に一回は「ゆうな便り」も発行している。必要時は電話を利用している。金銭管理も面会時の確認や遠方の家族には出納帳等のコピーを送っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話でのやり取り等を「ご意見要望承り表」に記載し職員間で共有し対策を立てて対応している。家族アンケートも年2回実施し要望把握に努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係が重視され基本的に異動はない。最近離職を避けるためユニット間の異動を行なったが、引継ぎを十分に行い利用者が混乱しないよう対応した。家族に報告している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り 組みを 期待し たい項	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人に教育委員会があり、新人・中堅研修等が取り組まれ、「ケアプランの立て方」等学んでいる。外部研修にも参加し伝達しているが昨年比し頻度が少なくなった。	○	外部研修にも積極的に参加できるよう工夫して頂きたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	小規模ケア連絡会の西部地区の研修会に参加し、他ホーム職員とつながりができつつある。他ホーム職員の実習や訪問を受け入れ、サービス向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の見学や入居後は家族に電話してもらったり、頻回に面会に来てもらう等、利用者が馴染めるよう工夫している。体験入居は行っていない。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を人生の先輩として敬う姿勢を持ち、食事作りや野菜作り、玄関の植栽の水やり等、利用者のできる力を引き出しながら支援している。「こやまケア」の50項目を利用者との関係作りの指針にしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り 組みを 期待し たい項	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントシートで利用者の生活歴や趣味、思い等を把握し職員間で共有している。日々の言動や表情、家族からの新たな情報等からも意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当職員を中心に、利用者や家族の思いや要望等を盛り込み、職員全員で意見を出し合い計画を立てている。本人の思いが叶えられるよう、家族の協力も得たり、本人参加のカンファレンスも開始した。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	三ヶ月に一回の評価見直しとなっている。状態に変化があれば随時見直している。家族や主治医、看護師の意見も参考にしている。介護計画のポイントを個人記録に挿んだり、計画に反映できるよう記録方法を変える等工夫改善している。	○	一ヶ月に一回の評価見直しを期待したい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算を取得している。家族や利用者の要望により受診時の同伴や外泊に柔軟に対応したり、早期退院への支援も行っている。法人の健康福祉祭りで認知症相談コーナーを設けている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取 組みを 期待し たい項	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の意向を聞きながら、かかりつけ医を決めている。医師との協力関係は良好で緊急時や検診等、適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	一部の家族に終末期の意向を聞いているが、自然な終末の迎え方を望んでいる家族がある。医師や看護師等関係者とどこまで援助してもらえるかを話し合っている。看取りの指針は作成している。	○	家族の意向に沿えるよう、他ホームの経験を聞いたり、関係者と十分な話し合いを重ねて頂きたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	食べこぼしやトイレ誘導、家族関係や健康面の情報を把握する時等、周囲に配慮して対応している。利用者との会話の中で時々馴れ馴れしい言葉が出ることがある。	○	「こやまケア」実践評価表による振り返りや日々のカンファレンス等で言葉使いについて十分話し合っ頂きたい。計画されている「尊厳」の学習に期待したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床後エプロンを付けて居室で洗濯物をたたむ、畑でジャガイモや玉葱を作る、自宅で使っていた箒と塵取りで居室を掃除する等、利用者は自分の生活習慣やペースで生活している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り 組みを 期待し たい項	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は米とぎや味噌汁の味付け、盛り付け、下膳等出来ることを行っている。職員は見守りや食事介助、会話をしながら同じ食事を食べている。管理者は食事作りを大切な支援と考え、利用者の出来る力を引き出すことに努めている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、入浴が可能である。昼から夕方にかけて入る人が多いが、夕食後に入る人もいて、本人の意思にそって支援している。嫌いな人にはタイミングをみて誘導している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は玄関の植栽の水やりや包丁研ぎ、おかずを一品作る、メニューをボードに書く等役割を持って生活している。出来ることを出来る時に行ってもらいたいと「一日の中で主役」になれる場面づくりに心掛けている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	体調や天候を見ながら、買い物や散歩、畑での野菜づくり等に出掛けている。困難な場合は利用者と一緒に植えた芝生の中庭やテラスで外気浴を楽しんでいる。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は利用者の自由な暮らしを支援するため開錠している。不穏状態にある利用者がある時には朝の一人勤務の時に玄関に施錠することがある。消防署や地域から見守りの支援を受けることがある。	○	利用者の見守りや一人勤務の時間を工夫する等、鍵をかけないケアのあり方を検討して頂きたい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り 組みを 期待し たい項	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火訓練は実施しているが、地震や風水害への訓練や職員間の話し合いは十分ではない。災害時には近くの法人施設や職員寮に連絡が行くが地域の協力体制の確保はこれからである。備蓄品は一日分である。	○	予定されている地震や風水害を想定した訓練の実施を望む。地域との協力体制も運営推進会議等で検討して頂きたい。3日分の備蓄品の確保も期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量は把握記録されている。法人の給食委員会に職員が参加し、風邪予防のメニューや低栄養の方の献立を考える等利用者一人ひとりへ支援している。時に医師や栄養士からアドバイスを受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	二つのユニットとも、ゆったりと自由に過ごせるスペースがあり、観葉植物や季節の花が飾られている。三匹の猫がユニット間を行き来し利用者の癒しとなっている。居間や居室の明かりは状況に応じて使い分けられ、居室のドアは全部違ったつくりとなっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使い慣れた家具や洋服掛け、仏壇等が持ち込まれている。自分の得意だった「書」が飾ってある等、本人が心地よく過ごせる居室となっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。